

TruPhase の追加導入(9)
—バランスアナログアキュライザーの適用(3)—

1. はじめに

バランスアナログアキュライザーBACU2000 の音質面の確認を実施します。

2. TruPhase の試聴方法

接続は前報(7)および前報(8)と同様です。

TruPhaseB 入力

Balance1 入力端子 from EMT981 (バランスアナログアキュライザー)

TruPhaseB 出力

Balance 出力端子 to TruPhaseA (XLR リベラメンテ)

前報(8)では、TruPhase による位相反転の効果に焦点をあてて試聴しました。

今回は、位相反転が必要ない試聴会で聴いてきた最近録音の CD により音質面の確認を行います。

今回、導入したバランスアナログアキュライザーと XLR リベラメンテは、基本的な仕様は、これまでのものと変わりはありませんが、特別なチューニングを加えたとのことで、音質の確認に興味があります。また、バランスアナログアキュライザーには自作のヴォリュームアキュライザーを貼り付けてみました。

試聴対象はすべて試聴会で聴いてきた下記の CD です。

harmonia mundi HMC 902100 03

ベートーヴェン ピアノトリオ全集
トリオヴァンダラー

harmonia mundi HMM 905296

モーツアルト ピアノと管楽器のための 5 重奏曲 K452
ベートーヴェン ピアノと管楽器のための 5 重奏曲 op.16
アンサンブルディローギ

harmonia mundi EVC D015

ベートーヴェン チェロソナタ集
フランソワ・フレデリック・ギー (ピアノ)
グザヴィエ・フィリップス (チェロ)

AVEX CLASSICS AVCL-25477

ヘンデル オペラアリア集
森麻季 (ソプラノ) 他

NAXOS 8.554563

ギターリサイタル

アナ・ヴィドヴィッチ (ギター)

JARO 43102

ブルガリアンヴォイス・アンジェリーテ

アンジェリーナ

3. TruPhase の試聴結果

TruPhase の試聴ということにしていますが、実際は、あらたにチューニングされたバランスアナログアキュライザーと XLR リベラメンテの試聴を演奏会で聴いてきた演奏の CD を EMT981 の再生で試聴した結果ということになります。なお、録音は最近のデジタル録音ですので、位相反転は行いません。

ベートーヴェンのピアノトリオは、ヴァイオリン、チェロ、ピアノともクリーンで切れがよく、かといってアナログ的な魅力がないわけではなく、ダイレクトカッティングのアナログのような印象です。ヴァイオリンの倍音、チェロの胴鳴り、ピアノの響きなど、どれをとっても演奏会の印象です。

ピアノと管楽器のための 5 重奏曲は、フォルテピアノとナチュラルホルンなど古楽器のアンサンブルです。フォルテピアノの高域の打鍵のインパクトや低音の沈み込み、ナチュラルホルンなど古楽器の質感など、非常にリアルで演奏会の印象が蘇ってきます。モーツァルトもベートーヴェンも古楽器で聴く楽しみを感じさせられます。

ベートーヴェンのチェロソナタは、リファレンスとしてよく聴いているものです。輝くようなピアノと唸り声のようなチェロの丁々発止の迫力が聴けます。

上記 3CD はいずれも harmonia mundi 盤で、小ホールの近接で聴いた印象との比較で、これらの録音の優秀さを感じます。

森麻季は、透明感のある伸びのある歌唱が生々しく、間接音も含めてリアルに聴けます。森麻季は、地元の小ホールと別の大ホールで聴いていますが、地元の小ホールの印象に近いものです。

ヴィドヴィッチのギターリサイタルは、女性らしい繊細なピックと胴鳴りの間接音までがリアルです。ヴィドヴィッチは隣接市の小ホールで聴いています。

ブルガリアンヴォイスは、協和しない重唱のエネルギー感あふれる歌唱が聴けます。このブルガリアンヴォイスは大ホールで聴いていますが、大ホールいっぱい溢れる、協和しない音程での重唱の迫力には驚かせられました。そういった迫力が CD でも聴けました。

4. まとめ

EMT981の再生でSAECのバランスケーブルをすべて除き、新たにチューニングを施したという、バランスアナログアキュライザーとXRLリベラメンテだけとする効果を認めました。

以上